



体験談シリーズ

— Myおせつかい編 —

こうやって 輪が広がっていくんだな

神崎 泰充さん
(21歳)

縁を繋げていきたいけど…

昨年、大学の同級生から突然、「学校を辞めなきやいけなくなつたんだ」と言わされました。彼女は勉強もできるし、特に問題がある人でもなかつたのでびっくり。気になつて聞いてみると、経済的な事情でしたが、「どうしたらいいんやろう」と呟く彼女の一番の悩みは別のところにありました。それは、今まで一緒に勉強し、楽しい思い出を作つてきた仲間と離れ離れになること。寂しい、

元気そうに見えて、実は、人には言えない問題を抱えている人。自分一人の力ではどうしようもなく、心に病を抱えてしまう人。私たちのすぐそばにも、人知れず悩んでいる人がいるかもしれない。そんなことに気づかせてくれる、神崎泰充さんの「Myおせつかい」を紹介します。

悲しいという気持ちを話してくれました。

仲の良い友達と毎日のように顔を合わせていた日常が急に終わってしまう。それがどんなに切ないか。彼女が大学を離れる最後の最後まで、学生生活を楽しんでもらいたい。ぼくは、今まで以上と一緒に過ごせる時間の大切にしました。そして、これから先も縁を切らずに仲良くしていきたい。そう思い、「一緒に靈友会をやらない?」と伝えました。が、そのときは、「考えさせて」と言わされました。そして、彼女は大学を辞めました。

「気になつて気になつて しようがない」

大学で作業療法士の勉強をしているぼくは、その後、実習でとある病院の精神科へ行くことになりました。

とにしました。でも、やはり人と関わるのが嫌なのか、いくら声をかけても返答はありません。目も合わせてくれない。彼の状態を窺いながら気をつけて接するようにしましたが、反応は返ってきませんでした。

もつと積極的に接するべきなのかな。それとも、一歩引いた方がいいのかな。どうすべきか、ずっと悩んでいました。

それでも、お経をあげて、彼にどんな言葉をかけばいいか、彼の力になれるよう

にと念願しながら、あきらめずに通い続けました。すると、あるとき彼が口を開き、「なんでそんなにぼくに声をかけるんですか」と言つたんです。ぼくは、「ぼくもあなたと同じ年で、気になつて気になつてしまふがないんです。そんなに苦しい状況にいるのに、気にならないほうがおかしいです」

実習初日、ぼくと同い年の男性が入院していました。こんなに若いのに、心の病で苦しんでいる……何があつたんだろうと、気になつて仕方ありません。自分の担当ではなかつたんですが、空いた時間を見つけてはその男性のところに通いました。

彼の症状について医師の先生に聞くと、発端は小学生のときだつたそうです。友達同士が話している光景を見て、自分の悪口を言われているのではと疑心暗鬼になつた。それから人と関わるのがだんだん嫌になり、中学校でも、高校でも友達関係がうまくいかない。その後、仕事も続かず、家に引きこもるようになりました。今回、入院したということでした。

何とか彼の力になりたい。少しでも元気になつてもらいたい。ぼくにできることは何かないかと考え、とにかく声をかけること

あきらめなくて本当に 良かった!

そんな日々が続き、1ヶ月後。

いつものように彼に会いに行くと、今度は、あんなに人と関わるのが嫌だつた彼のほうから声をかけてくれました。「いつも来ていただいて、ありがとうございます」。それから、挨拶だけじゃなく、好きなスポーツの話などもお互いにするようになりました。声をかけ続ける中で、少しづつ関係が変わってきたんです。

以前は、薬をたくさん服用して、副作用も出てとても辛そうでした。でも、ぼくの

実習最後の日、朝のミーティングで医師の先生から、「○○さんは薬も減つて、ほかの患者さんともコミュニケーションを取れるようになつてきているよ」と聞きました。

早速会いに行くと、彼がこう言いました。「あなたと出会つて、人と話すのが本当に楽しくなりました」。

そして、「仕事もまたやりたい」と。

今まで生きてきて、こんなに嬉しいと感じたことはないかもしない。あきらめずにおせっかいを焼き続けて、本当に良かつたと思える実習生活になりました。

「私も頑張らないといけないな」

この話を、大学を辞めた友達に伝えました。すると、彼女から意外な話を聞いたんです。「自分が大学を辞めることで悩んでいたと言つたけど、実は、弟が友達どうま

くいかなくて、弟も学校を辞めたんだ」と。

そして、彼女はこう続けました。「でも、泰充がどんな思いでその患者さんと関わってきたかを聞いていたら……私も頑張らないといけないな。あのときは考えさせてほしいって言つたけど、一緒に靈友会をさせてください」。

ぼくは今回の経験を通して、「My おせっかい」ってこうやつて広がっていくんだなど、身をもつて体験しました。もつともつと、いろんな人に「My おせっかい」を伝えたいと思いました。会員と力を合わせ、これまで関わった友達、患者さん、そしてこれから関わっていく人たちと一緒に、おせっかいの輪を世の中に広げていきたい。周りの青年を引っ張つていけるリーダーになれるように頑張ります。

『明法』2020年3月号から